

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	昭和49年度～平成22年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	宇目・小国線 (宇目区間) (大分県)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長73.8kmのうち 宇目区間の延長15.4km、幅員5.0m		
費用対効果分析 の算定基礎となっ た要因の変化	宇目区間について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 10,185百万円 総費用(C) 6,313百万円 分析結果(B/C) 1.61		
森林・林業情 勢、農山漁村の状 況その他の社会経 済情勢の変化	宇目町の森林の人工林率は57%であり、66%が民有林である。また、受益地の人工林率は75%であり、63%が国有林である。 受益地では今後、更新、保育及び間伐の施業量、素材生産量が増加する見込みである。 森林組合が広域合併しており、本区間は労働力等の広域利用に利用されることが期待される。 林産加工施設は宇目町中心部に木材加工施設や共販所があり、素材生産から加工・販売まで一貫した総合的な木材供給地づくりを目指している。 本区間は起点付近の集落から宇目町中心部への距離が短縮され生活道として利用されることが期待される。 緑資源公団(現緑資源機構)が実施した調査の結果、稀少猛禽類の飛翔が確認されたことから、モニタリング調査を実施し、工事実施時期等について適切な措置を講じている。 小動物の移動を容易にするために、L型側溝を試行的に採用することとしている。 濁水を防止するため、法面の切取工事後は速やかに緑化工を実施している。 舗装材への再生アスファルトの使用など資源の有効活用を図っている。		
事業の進捗状況	進捗率88% うち宇目区間 進捗率49% 周囲の景観との調和を図るため、丸太伏工を採用している。		
関連事業の整備 状況	整備後は国道を補完し、地域の新たな交通ネットワークの形成に寄与することが期待される。		
地元(受益者、 地方公共団体等) の意向	林業・林産業を振興していく上で集材及び輸送効率の大幅な向上が見込まれるとともにグリーンツーリズム推進の観点から広域観光ネットワークを構築するものであり、さらに、災害時の緊急時には県民の命と財産を守るライフラインとしても重要な役割を果たすものであることから、大分県、宇目町等は早期完成を要望している。		
事業コスト縮減 等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザなどの使用の積算への反映、構造物への二次製品の採用により、コスト縮減と工期の短縮を図っている。		
代替案の実現可 能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。 なお、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき、環境保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。		
評価結果及び実施方 針	・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、沿線集落から宇目町中心部への連絡道としても機能することが期待されることから、事業の有効性は認められる。 事業の実施方針： 着工中区間のうち、宇目区間については継続とし、引き続き稀少猛禽類のモニタリング調査に基づき環境保全に配慮して事業を実施する。		